

ユダヤ人の過越祭が近づいたので、イエスはエルサレムへ上って行かれた。そして、神殿の境内で牛や羊や鳩を売っている者たちと、座って両替をしている者たちを御覧になった。イエスは縄で鞭を作り、羊や牛をすべて境内から追い出し、両替人の金をまき散らし、その台を倒し、鳩を売る者たちに言われた。「このような物はここから運び出せ。わたしの父の家を商売の家としてはならない。弟子たちは、「あなたの家を思う熱意がわたしを食い尽くす」と書いてあるのを思い出した。-ヨハネ2章-

新しい神殿

過越祭が近づいたので、イエスは弟子たちと一緒に祭りを祝うためにエルサレムに上って行かれました。そこで、イエスは礼拝所にふさわしくなるように神殿を清められました。イエスのしぐさは、動物の供え物をする宗教の終焉を命じています。彼は、その矛盾を預言者によって非難された血なまぐさいいけにえを、神が拒否したことを宣言しました。

「お前たちのささげる多くのいけにえが私にとって何になろうか、と主は言われる。雄羊や肥えた獣の脂肪の献げ物に私は飽いた。雄牛、小羊、雄山羊の血を私は喜ばない」(イザヤ 1:11)。

イエスが与えようとしていた愛の、最大の証、父に喜ばれる唯一の供え物が示されます。ヨハネの手紙にこう書いてあります。「イエスは私たちのために、命を捨ててくださいました。そのことによって、私たちは愛を知りました。だから、私たちも兄弟のために命を捨てるべきです」(1ヨハネ 3:16)。

聖パウロが言ったように、私たち一人一人は神の神殿です(1コリント 6:19)。この四旬節の間に、私たち自身の神殿を振り返り、それを清めて、礼拝所にふさわしくしましょう。どうすれば霊的な神殿をきれいにすることができますか。私たち全員が知っている第一朗読のガイド、十戒です。時間があれば、また家で読んでください。

一般的に、私たちはイエスの道、犠牲的な愛の道にどれだけよく従っているかを考えるように求められます。私たちが自分のためだけに生きるというのはどういう意味ですか。人生とは、他の人と一緒に、そして他の人のために生きることを意味します。したがって、クリスチャンとして、私たちは隣人、家族、そして友人のために喜んで自分自身を犠牲にするように求められています。私たちは死者、特に亡くなった家族を思い出し、祈っています。私たちの周りに住んでいる人々に感謝しています。そして、神の愛といつくしみをほめたたえます。

古い神殿を破壊し、新しい神殿を建てましょう—いつくしみと、思いやりと、愛のある神殿です。主の御体を食べるたびに、私たちは、イエスが私たちの心にもたらず許しと清めの必要性に気づきます。キリストは私たちの生活に入り、罪を赦し、神のふさわしい神殿となるように私たちを清めます。私たちは、清められた神殿になるのです。イエスを通して、私たちは、許しと自由を与えられました。ですから、私たちは、神のふさわしい神殿になるように生きましょう。



